

巻頭言

新しい年の門出に際して

日本熱測定学会 会長
大阪市立大学 教授

村上幸夫



明けましておめでとうございます。新春を迎え謹んで会員の皆様へ新年のご挨拶を申し上げます。

昨年10月幹事会から推薦され、会員の皆様の投票により会長に選ばれ、向こう2年間会長の重責を担うことになりました。私に与えられた職務を全力投球で全うしたいと考えていますが、会員の皆様の暖かいご支援があって始めてこれが可能になりますので宜しくご協力下さいますようお願い致します。

学会が組織され20数年が過ぎ、学会は幾多の問題を抱え質的变化を求められています。私は昨年の会長選挙で、「開かれた学会を目指す」ことを約束しました。これを実現するため、忌憚のないご意見をどしどしと学会事務局なり幹事会メンバーにお寄せ下さい。幹事会で審議の上、皆様のご要望を実現化していきたいと考えています。幹事会メンバーは学会発展のため以前にまして知恵を出し合っ問題解決に努力して頂いています。

学会が質的に向上し、発展するために考えねばならないことが幾つかあります。例えば大分古い話ですが、熱測定討論会について「この学会の討論会では名前の通り測定技術だけが議論され、測定結果については討論しない」と言って退会された方がいました。このような意見は他の学会に所属している人からも聞いたことがあります。測定手段を通していろんな分野の人が集う1000人弱の集合体である特異な学会であり、このことは学会として長所であると同時に、短所でもあり、測定結果の議論に深みが出ない場合もあるでしょう。改善策は昨年名古屋で開催された第31回熱測定討論会のように3会場にして時間的余裕のある発表も一つの方法です。また、今年つくばでの討論会のようにJoint meetingや手段を異にする同じ分野とのミニシンポジウムなどを企画し、討論を深めるのは如何でしょうか（これまで何回か企画されたことがある）。少し飛躍がありますが、学会名の変更も視野にいれて考えてもよいでしょう（現に会員の中にはこのような意見もある）。

現在、学会の中で研究（作業）グループ活動が幾つか行われている。これらのグループ活動はそれぞれに成果を挙げていますが、その活動が広く周知されていない嫌いがあります。それぞれのグループの活動状況をもっと宣伝しては如何でしょうか。学会の活性化の一端としてもっと多くの研究（作業）グループが名乗りを上げ、それぞれの分野

でグループ活動を盛んに行い、講演会やワークショップを企画して、その成果を発表するのは如何でしょうか。

幹事会ではこのような問題を議論しようと考えています。皆様のご意見を学会にお送り下さい。

1995年収支決算によると単年度では赤字決算になりました。最大の原因は正会員の退会による会費収入の減少です。4年前の会費値上げに対してバブル崩壊による社会的不況の影響がここに来て顕在化したとも考えられますが、原因はそれだけでしょうか。会員であることにどれだけメリットがあるか考えるようになったのでないでしょうか。換言すれば学会サービスに問題がないでしょうか。一度入会された会員を長期にわたり維持するために、学会は会員のニーズに応じたサービスをしていかねばなりません。現在、講習会や講演会・ワークショップなどの事業を行い、会員へのサービスを心がけていますが、これ以外にどのようなサービスを要望されるのかご教示下さい。会員増強も重要であり、現在、会員になることによりどんなメリットがあるかを具体的に示す入会勧誘のパンフレットの作成・配布を企画しています。

本年8月には第14回IUPAC化学熱力学国際会議が大阪・千里で開催予定です。学会が全面的に応援して国内で開催する国際会議は10数年前京都で行われたICTAの国際会議以来です。あの時は事務局の強力なバックアップで成功裡に終わりました。今回は会員一人一人の力を結集して成功させたいと考えています。我々のできることはこの国際会議に参加して、研究発表することだと思います。現在2nd Circularが配布されています。これを参考にして、是非参加して下さいをお願い致します。今年はアメリカ・フィラデルフィアでICTAC（ICTAの改称）が開催されます。日本からも多数の研究者が参加されると思います。世界的に見ても熱測定関係の研究者人口は多い方と思われるので、もしICCT96が成功すれば、近い将来再び日本でICTACが開催されるかも判りません。その時は学会は全面協力することになるでしょう。学会の事業として国際協力を挙げています。このような観点からも今回のICCT96を成功させたいと考えていますので、皆様のご協力を重ねてお願い致します。

終りに、会員の皆様のご健勝とご研究がますます発展されることをお祈り申し上げます。